

号 外

http://www.nisshiren.com/

あ〜す・れっく

＝日資連界報＝

日本再生資源事業協同組合連合会
〒101-0061 千代田区三崎町 2-21-1
TEL 03 (3263) 9101
発行人 上岡 克己
編集人 森岡 伸志
印刷 株式会社資源新報社

復興支援に全力を注ぐ

日資連会長 上岡 克己

この度日本東大震災により被害を受けられた皆様は心よりお見舞いを申し上げます。当連合会会員の中にも甚大な被害を受けた方々が多数いらっしゃる事は大変心痛い事であり、被災地と致しましては復興のために微力ながらも全力で支援して参ります。また今回の震災は放射線物質により再生資源の流通が滞る問題も引き起こしております。この問題には関係団体である

長期的な支援継続で

関資連会長 星本 昭次

3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた方々の冥福を心よりお祈り申し上げます。また、被災された皆様、岩手県、宮城県、福島県の沿岸地帯は重大な被害を蒙りましたし、隣県の

あまりの惨状に声もなく

上岡会長が被災地仙台を訪問

4月27日、上岡克己会長と草間貴明事務局長が東日本大震災の爪痕も生々しい仙台を訪問されました。11時過ぎに仙台駅に着いた上岡会長と草間事務局長は東北資連(東北六県再生資源組合連合会・田中義信会長、組合員437社、理事の齋藤孝三氏(株サイコー)が出席)の事務所を訪れ、被災地の惨状を視察しました。

仙台駅から車でほんの20分ほど走ると、そこはもう被災地。宮城野区南蒲生から仙台港方面に抜ける道筋は大分瓦礫が片

付いていましたが、道路際に寄せた瓦礫はほとんど手がつけられていない状態。ビールの醸造タンクが倒壊したキリンビールの手前に斎藤さんの仙台湾資源化センターがあり、下車して内部を見ていただきました。

また、大型車両や電信柱がひっくり返ったままの状態でしたが、「夏までにはもとにもどしたい」という斎藤理事の言葉にうなずいておられました。とにかく辺り一面、瓦礫と流失車両の山で、ついでと流石の瓦礫が、大変な被害がでた。改めて、この間届けて

発事故より、東北南部や関東北部の広範囲で放射性物質に水や野菜が汚染された事が深刻な二次被害を生んでいる事で、原発事故の早期収束が切望される。このように情勢の中、被災地は一日も早い復興に向けて、被災地と共に関資連では日資連と共に被災地組合員の復興支援を最優先に、また放射性物質汚染問題では再生資源流通が滞る事のないように、国や関係省庁に早急な基準設定を求めています。被災地以外の者が何を

茨城県、千葉県においても規模こそ違え同様の被害がありました。死者、行方不明者は3万人近くに及び、地震発生一カ月を経過した今も東北地方では、被害の全容が判明しない地域があります。さらに不幸なことは原

早期の復旧を願う

近畿地区地区長 山原 丈之

いただいた救済支援金のお礼があり、その他の被災地の状況や同業者の状況などについて庄子さんから説明がありました。また、当日迎えに出る事ができなかった青森県の田中義信会長からのメッセージも伝えられました。

救済義援金の400万円、ありがたかった

日資連執行部に対してなにかと文句の多い東北資連ですが、今回の迅速な救済対応で、大分評価が変わったのではないかと思います。送っていただいた400万円に加えて合計495万円を取りあえず連休前に被災者全員に送り届けることができました。電話の向こうで涙ながらに礼の言葉をおっしゃられる被災した組合員の声を聞いて、我々も関係する

組合員一致協力し

中国地区地区長 杉本 邦夫

東日本大震災に於いて被災された組合員の皆さんは、心身を休めて下さい。力不足ではありますが、皆様は復興に向かう時、少しでも応援できるよう今から私達が頑張ります。被災された組合員の皆さん、これから長い戦いが始まります。途中で息切れしない応援が必要で、半年後、一年後、いや十年後までも「あきらめない」応援の覚悟をお願いします。

適切な支援を行い

沖縄地区地区長 玉城 栄功

東日本大震災で被災された方々、並びに犠牲者となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに一日も早い復興をお祈り致します。沖縄は震源から遠く離れ今回の地震による被害はありませんでしたが、テレビで津波の映像を見ていると自然の脅威をまざまざと感じ人間の無力さを実感させられました。今回の震災には日本を始め世界中の人々が大きな衝撃を受けると同時に、人の『礼儀正しさ』と『忍耐強さ』は人々の心に大きく残っています。

被災地の要望に応え

青年部長 武井 大輔

このたびの東日本大震災により、被害を受けられた皆様は心からお見舞いを申し上げます。被災地は一日も早い復興をお祈りいたします。また、被災された東北資連の皆様が一日も早く復興事業を再開できますよう最大限の支援をさせていただきます。震災直後より、日資連青年部では関東を中心に復興支援に向けての意見交換を積極的に行っていました。被災地の日も早い復興を祈念申し上げます。



上岡克己会長(中央)と庄子専一東北資連副会長(左)、齋藤孝三理事(右)。(株)庄子専一商店ヤードにて

この度の東日本大震災で被災された皆様に 心よりお見舞いを申し上げます

日本再生資源事業協同組合連合会一同

業界挙げて 東北の復興支援を

―東日本大震災に

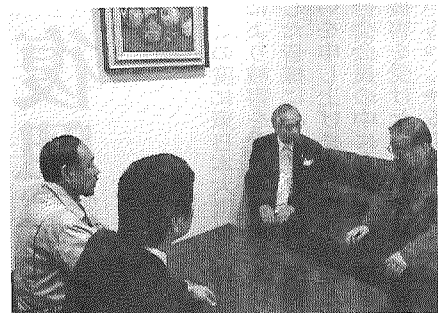
3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方の再生資源業界に甚大な被害をもたらした。特に福島県、宮城県、岩手県、青森県の太平洋沿岸地区の業界業者やドックは壊滅的な被害を受けた。小名浜港、相馬港、仙台港、塩釜港、石巻港、気仙沼港、大船渡港、久慈港、八戸港などの近辺のヤードはほぼ全滅。被害総額は推定で100億円超となる。JFE条鋼、東北スチール、伊藤製鉄所、東北東京製鋼などの電炉メーカー、日本製紙石巻工場、同岩沼工場、丸二製紙、三菱製紙八戸工場などの製紙メーカーも相当な被害を受けた。操業停止に追い込まれたものも。東北業界復興への道のりは果てしなく遠い。しかしながら、我々は挫けるわけにはいかない。まず、業界あげて地域の復興に取り組んで欲しい。被害に遭われた方々もそうでない方々も地域の復興にすべての努力を傾注するのだ。発生品を稼業の糧(かて)とする我々は、地域社会の復興が不可欠だからだ。

時間の経過とともに被害は拡大していくだろう。現状をしっかりと受け止め、再生への道をつくりあげていかなければならない。

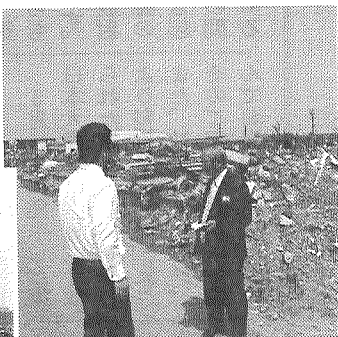
我々の父祖が第二次大戦から立ち直ったように、我々はこの困難な局面からみごとに立ち直っていく。

(3月16日付、資源新報より)

上岡会長、草間事務局長が4月27日に仙台を訪問、斎藤理事の案内で被災現場を視察しました。
(詳細は一面)



上岡会長に東北地区の被災状況を報告。俣庄子専助商店会議室にて(上)

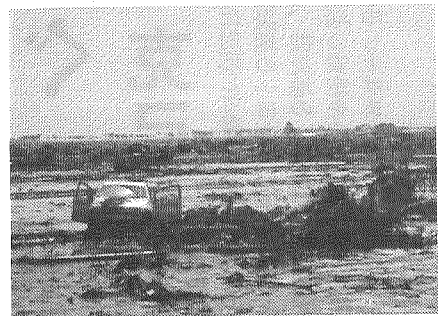


斎藤孝三理事の話の話を聞く上岡会長。「実際に訪問して本当によかった」とコメント。(上)



仙台市南蒲生一帯は瓦礫の山。こうした光景が海岸線に沿って幅4キロ、長さ160キロにわたって続く。(左)

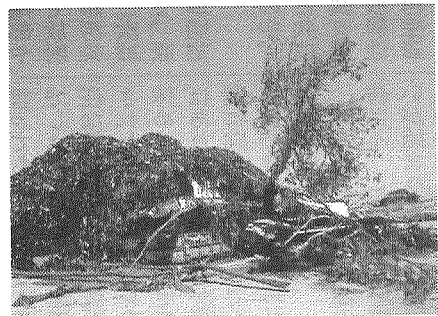
～被災現場から～



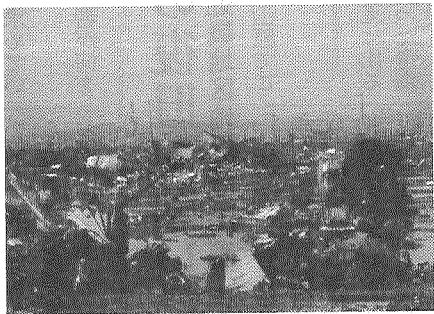
荒井地区―仙台ゴトウ解体とSS(エスエス)自動車周辺(右)



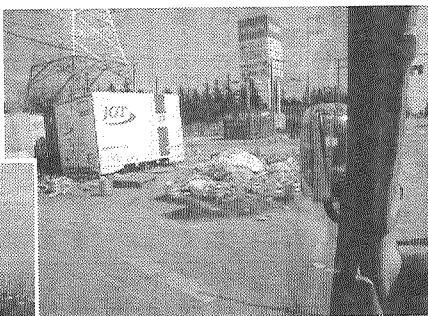
閉上(ゆりあげ)街道と最大の被害を出した荒井地区周辺(左)



仙台ゴトウ解体―ハーネスは流されなかった。精緻な解体の賜物(左)



全て押し流されて岡田砂山から仙台市中心部が一望できる(上)



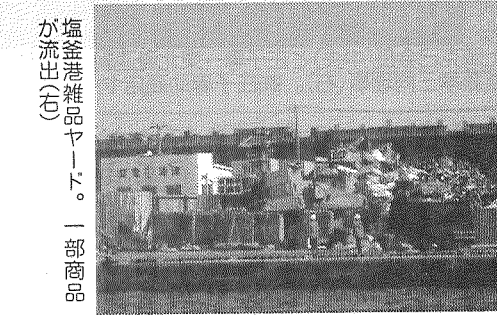
キンビールも商品の大半を流出。「生樽」は交通標識代わりに。数万個の缶ビールが流出し、キリンは「お持ち帰り自由」にしたとか(上)



多賀城市方面(下)



港金属は被害甚大だが、早くもクレーンが稼働していた(左)



塩釜港雑品ヤード。一部商品が流出(下)



塩釜港周辺(左)

業界復興への胎動は 間違いないと始まっている

(株)資源新報社 小松 崇明

うれしいことが二つほどありました。一つは岩手県大船渡市、(株)大船渡資源の伊藤博専務から携帯に電話があったことです。お父上の伊藤安秋さんとお母さんと伊藤君の奥さんは罹災を免れた妹さんのところに身を寄せていること、さやかながら事務所を建てて荷受けを始めたこと、「小松さんが博は死んだ、博は死んだと言いつつ死なないうそじゃないですか」と、改めて「抗議」されたこと、「元談、元談」ですんだこと、昨日、今弘商店の高橋文一社長が激励にきてくれたことなど、話はつきなかつた。

もう一つは福島県いわき市の(株)溝井光治社長のメールをいただいたことです。溝井さんは福島県の研修委員をやっている。そうした仲間にあてて無事を知らせる内容のメール。「溝井は元気です。会社も自宅も何とか無事です。連絡が遅くなり、皆様には大変ご心配をお掛けいたしました。申し訳ございませんでした。また、皆様の無事が確認できましたこと、安心いたしました。現状、地震、津波そして福島原発の放射能影響で家族を埼玉に避難させております。会社においては4人の社員が自宅や車を流されてしまつたなど、住まいの確保や今後の対策に頭を悩ましております。また、いわきの沿岸部には自衛隊、消防、警察などいまだに復興の手が入っておらず、正直、悲惨な状況です。そんな中でも、炊き出しや、配給などボランティアをしながらみんなで力を合わせ東日本復興のため、地域のために今できることを精一杯頑張っています。同じく災害にあわれた皆様も大変だと思いますが、ともにがんばりましょう。ものすごい災害にぶつかり、非常に困難な局面に直面しているけれども、東北の業界は決して負けていないこと、むしろこの苦難を糧としてより強靱な経営体質を作り上げていくという諸兄の強烈な意思を感じます。

業界の被災状況を把握したら、今度は再建策だ。ありとあらゆる手段で未曾有の難局を乗り切らなければならない。そうでもしなければ、この災害で亡くなった方々、行方不明になられた方々の無念が晴れることはないだろう。業界復興への胎動は間違いないと始まっている。

(3月28日付、資源新報より抜粋)